

# 「よい看取り」を考える

第4回緩和ケアセミナー

東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野 平塚裕介

# 背景

- 死亡確認は行う医師にとって緊張感を覚える出来事である
- 死亡確認について教育を受ける機会はほとんどない
- 他の医師の振る舞いを見る機会も滅多にない

# なぜ「よい看取り」が重要か？

- 患者の死亡は家族にとって非常に辛い出来事である
- 医師の死亡確認時の振る舞いは長期的な遺族の悲嘆に大きな影響を及ぼしえる
- 医療者の振る舞いが良ければ遺族の健全な悲嘆が促進される
- 医療者の振る舞いがよくない場合は心的外傷を強める

# 遺族が医師に望む コミュニケーション

## 参考文献)

- Shinjo T, et al. *Journal of Clinical Oncology* 2010 (緩和ケア病棟の遺族調査)
- Hatano Y, et al. *Journal of Palliative Medicine* 2018 (緩和ケア病棟の遺族調査)

# 遺族が望むコミュニケーション

## 礼儀正しい振る舞いで患者・家族に接する

- 言葉遣いや動作が丁寧である
- 自己紹介を行う(主治医/担当医/当直医)

患者のことをよく分かってる医師のほうが望ましいが  
分からないなりに丁寧な振る舞いを心がける

# 遺族が望むコミュニケーション

## 患者への接し方やケアの仕方を指導する

- 予測される経過とその対応方法を説明する
- 臨死期の症状が自然経過であり「苦しくない」と保証する
- 過度な警告を行わない(急変という言葉をやや安易に使用しない)
- 聴覚や触覚は最期まで保たれることを保証する

意識の低下・終末期せん妄  
死前喘鳴・下顎呼吸など

# 遺族が**望む**コミュニケーション

## 家族が十分悲嘆できる時間を準備・確保する

- 予測される経過とその対応方法を説明する
- 患者の傍らに家族がいるように配慮する
- 家族の労をねぎらう
- 家族全員が揃ってから死亡確認を行う
- 死亡確認後も家族が十分に悲嘆できる時間をつくる

意識の低下・終末期せん妄  
死前喘鳴・下顎呼吸など

# 遺族が望まないコミュニケーション

- 病室外から医療者の会話が聞こえる
- 患者の傍らで患者に聞かれたくないであろう会話をする
- 詳細な説明なく急変する可能性だけを警告する
- 慌ただしく機械的/事務的に死亡確認をする
- 死亡確認時に家族が患者の傍らにいられないような環境

患者さんに意識があるように対応する

医療機器に囲まれていたり  
診察時に家族を追いやる環境

# エビデンスから考える 死亡確認の手順

## 参考文献)

- Bailey FA, et al. *Palliative & Supportive Care* 2005 (アメリカの研修医教育でのGL)
- 地域の多職種でつくる「死亡診断時の医師の立ち振る舞い」についてのガイドブック (本邦の在宅看取りにおけるガイドブック)
- Kusakabe A, et al. *Journal of palliative medicine* 2016 (在宅看取りでの遺族調査)
- Mori M, et al. *Journal of pain and symptom management* 2018 (一般人対象のビデオ研究)

# ①死亡確認前の準備

- 身だしなみを整える
- 質問に適切に答えられるように準備する
- 最近の様子(家族の反応や特記事項)を把握する
- 予測されていた死か突然死か家族の理解度を含めて把握する

死亡前後の状態が分からなければ  
受け持ち看護師に確認する

## ②病室に入ってから

- 落ち着いた態度で**敬意**を表す(忙しそうにしない)
- **自己紹介**と役割を伝える(当番医/担当医)
- 看取りに立ち会う家族が誰か確認する
- 共感的な言葉をかける
- **丁寧な態度**で接する

# ③死亡確認の診察

- 診察は生きている患者と同じように行う
- 環境を整える(TVを消したり家族を近くに集める)
- 死の三徴(呼吸停止・心停止・瞳孔散大)の確認
- 死亡時刻を確認する(PHSやスマートフォンは望ましくない)
- 家族に死亡したことを明確に伝える

家族の反応をみながら  
ゆっくり行う

## ④死亡確認後

- 家族が落ち着くまでの時間を確保する
- 家族の話を傾聴する
- 患者の状態を主治医からよく聞いていたことを伝える
- 死亡診断書に書く死因について説明する
- 家族へのお話し
  - ①患者の辛さに関すること ②患者への敬意 ③家族への労い

# ⑤家族への声かけ

## 【主治医/担当医の場合】

- 今後何か相談がある際は後日連絡するように伝える

連絡があったら  
ゆっくり時間をとって傾聴する

## 【当直医の場合】

- 主治医に報告することを伝える
- 何か問題が生じた際は主治医へ連絡するように伝える

# ⑥カルテ記載の内容

主治医に伝わるように

- 死亡確認時刻
- 死亡確認者の名前
- 死因について簡潔に記載
- 対光反射消失/心肺停止状態を確認した旨
- 家族の同席の有無
- 看取り時の特記事項(家族の反応など)

# 注) NGワード

- 「大往生でしたね」
- 「年齢に悔いはないですね」
- 「苦しまなくてよかったですね」

# 注) NG振る舞い

- 自己紹介しない
- 素足
- 不機嫌そうな顔
- 足音が大きい
- 声が過剰に大きい
- 忘れ物をする(聴診器・ペンライト・時計)
- 死亡診断後に患者の衣服を整えない

ご清聴ありがとうございました  
明日からのみなさまの  
診察の一助になれば幸いです